

# 流早死産の内分泌学的研究

## 初期切迫流産の予後判定について

慶応義塾大学医学部産婦人科教室

飯塚理八  
小林俊文  
中村幸雄  
赤塚正純  
田辺清男

### 研究目的

流産の前段階である切迫流産の原因ならびにその病態は複雑で、多種多様である。したがって、切迫流産の診断、治療方法の選択および予後の予測判定の基準につき、必ずしも客観性を有する方法があるとはいえないのが現状である。

そこで、今回は、既往妊娠歴、臨床症状の種々の所見に各々予めスコアを与え、一定スコア以上の症例を入院治療の対象とし、この対象例につき、主として、臨床症状、尿中HCG値、超音波断層法、Doppler法、血中性ステロイドの動態などを検討し、これらの因子と予後の関連性を追求した。さらに、これらの因子を基準とした切迫流産の予後判定スコア作成を試みた。

### 研究方法

研究対象は、昭和49年1月より昭和51年8月までに我々の設定している既往妊娠歴、内診所見、自覚症状よりなるスコアにて、入院基準5点以上に達し、切迫流産の診断の下、妊娠16週までに慶応病院産科に入院、治療した症例とした。設定スコアは、小量の断続する出血3点、中等量以上または持続性の出血5点、外子宮口1cm以内の開大2点、1cm以上開大せるもの4点、下腹部痛4点、持続する腹部緊満感2点、2回以上の自然流産または前回妊娠時頸管縫縮術を要した例2点、前回死産または早産例2点と定めている。

入院後の観察、チェック項目は、内診所見、自覚症状、検査項目として、胎児発育状態の検査である超音波断層法、Doppler法、絨毛機能検査として尿中HCG値測定を出来るだけ連続的に全

例にRoutineに行った。また、全例、BBTを記載させた。さらに、その他の症例により血中estrogen, progesterone, HCG値を測定し、切迫流産チャートを用い、入院後の検査成績を記録した。尿中HCG値は、早朝第1尿を用い、UCG titration setにより測定した。原則として、安静度は、洗面、トイレ時以外はベット上臥床を保たせた。治療薬剤として黄体ホルモン剤は用いなかった。

流産の転帰をとった症例では、子宮内容物の病理組織検査を全例に行ない、そのうち反復流産例においては、可及的に染色体検査を行った。

### 研究結果

研究期間中の前述の基準による切迫流産入院例は392例で、そのうち204例、52.0%が流産に終わった。90例、すなわち切迫流産例の22.9%が入院後3日以内に流産した。また、年度別の流産率に有意の差は認められなかった(図1)。

入院時の主訴別の予後は、出血と下腹部痛を合併した症例が56例中48例が流産し、最も予後不良で、腹部緊満感のみ訴えた群が最も良好な予後であった。

尿中HCG値は予後良好群においては妊娠8週より妊娠10週にピークに達し、その値はほとんどの例で12800 iu/L以上を示した。(図2) 1回のみ測定例でも同様の結果であった。また、予後良好例は、初回測定値が低値であっても連続測定により尿中HCG値の上昇がみられ、HCG値による予後予測は1回のみ測定では不可能である。予後不良例群では、予後良好群に比し、低

値を示し、6400iu/L以下の例が多く(図3)、1回のみ測定例でも同様の結果であった。

超音波断層法では、胎嚢(gestational sac)最大径は妊娠週数に比例し直線的相関を示す。妊娠経過正常例45例による標準胎嚢増加曲線を求め、これと切迫流産予後良好例と不良例を比較した。妊娠継続例では胎嚢増加曲線正常範囲内にあり、予後不良例では当然のことながら過少胎嚢像、胎嚢増加停滞を併発するが、HCG値の低下をみない時点で、すでに胎嚢増加停滞を認める例が存在する。

### ま と め

切迫流産の予後判定因子をより客観化し、流産スコアを作成する目的で、切迫流産の診断を予め与えたスコアにより統一し、入院安静という

条件下におき、内診所見、自覚症状、尿中HCG値、超音波断層法、Doppler法などにつき検討した。

臨床症状では出血と下腹部痛を合併する群が最も予後不良であった。

尿中HCG値は、妊娠8週以降にいたっても600iu/L以下である例は予後不良を推定し得る。

超音波断層法で、過少胎嚢像、増加停滞を示す例は予後不良である。

しかし、これらの検査は1回のみでの検査結果での判定は危険で、継続的に検査する必要がある。

### 学 会 発 表

第72回不妊学会関東地方部会、昭和51年12月4日。

図1 流産の種類(入院)

	切迫流産	進行、不全 稽留流産	合 計	切迫流産 →流産	3日以内 の流産
昭和49年	139	38	177	77	28
50年	152	45	197	81	38
51年 8月まで	101	24	125	46	24
例 数	392	107	499	204	90
(%)	100			52.0	22.9

図 2

切迫流産尿中hCG値 (妊娠継続例)

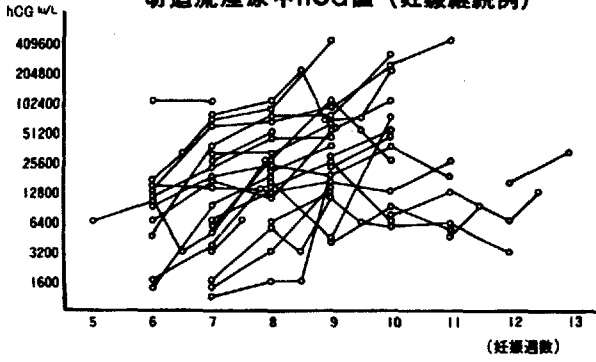
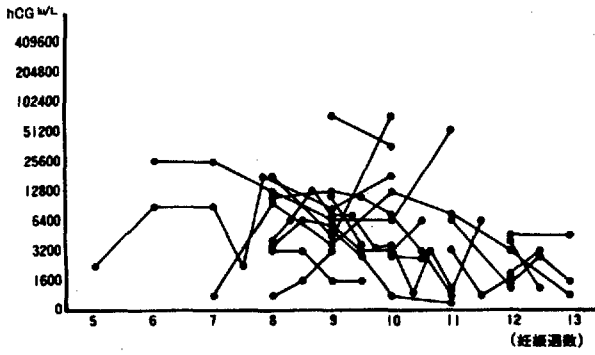


図 3 切迫流産尿中hCG値 (流産例)



↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的

流産の前段階である切迫流産の原因ならびにその病態は複雑で、多種多様である。したがって、切迫流産の診断、治療方法の選択および予後の予測判定の基準につき、必ずしも客観性を有する方法があるとはいえないのが現状である。